

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)熱田物流センター再開発計画	階数	地上5F
建設地	愛知県名古屋市長瀬区桃園町317番、318番1、319番1、320番1の一部、321番の一部、322番の一部、324番の一部	構造	S造
用途地域	都市計画区域内 市街化区域 準防火地域	平均居住人員	90 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年5月7日
敷地面積	14,568 m ²	作成者	
建築面積	5,547 m ²	確認日	2023年5月7日
延床面積	21,312 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 50%
③上記+②以外のオンサイト手法 50%
④上記+オフサイト手法 50%

0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 空気汚染への対策・緑による景観・精神的負担に対する気分のリフレッシュを行える工夫などにより、建物利用者の身体的、精神的な健康を維持する対策となっている。		その他 特になし
Q1 室内環境 F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用しており、化学汚染物質による空気汚染を回避する為の対策を行っている。 居室面積に対して、十分な大きさの開閉可能な窓を設置しており、部屋を利用する各自の意思による空気質の改善・コントロールを行うことができる。	Q2 サービス性能 建築の利用者にとって広く感じる空間、景観が楽しめる空間を実現できる十分な天井高を実現している。 リフレッシュスペースと自動販売機の設置により、新たな活力を生み出す空間として快適性が向上している。	Q3 室外環境(敷地内) 多くの植栽を行い、建物の色彩や形状を周辺のまちなみに調和させている。
LR1 エネルギー 建物が運用時に消費するエネルギーの削減率が高い建物である。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器を採用しており、節水に努めている。 躯体と仕上げ材が容易に分別可能であり、解体時に内装材と設備が取り外すことができる。よって解体時にリサイクルを促進する対策となっている。	LR3 敷地外環境 建物運用時における廃棄物の発生抑制、分別措置、減量化の取り組みを行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される


重点項目スコア・結果シート

(仮称)熱田物流センター再開発計画

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	5.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.118277698	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.01182777	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.059138849	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.7
	
2. 自然共生	評価点 = 2.9
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.7
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。